

2021年6月

公益財団法人 京都服飾文化研究財団

## 「ドレス・コード?——着る人たちのゲーム」ドイツ展 開催のお知らせ

2019年から2020年にかけて京都服飾文化研究財団(KCI)が3館の美術館(京都国立近代美術館、熊本市現代美術館、東京オペラシティ アートギャラリー\*)と共催した展覧会

「ドレス・コード?——着る人たちのゲーム」が、ドイツのボンに所在する国立美術館、ブンスクンストハレ(ドイツ連邦共和国美術展示館)に招聘され、このたびオープンいたしました(会期:開催中~9月12日)。

現代社会における新たな〈ドレス・コード〉、私たちの装いの実践(ゲーム)を見つめ直す本展は、KCIの衣装コレクションから精選した約90点を中心に、アートや写真、マンガ、映画ポスター、映像なども加えた約300点の作品で構成しました。

『毎日新聞』紙上で2019年の「美術評論家が選ぶ展覧会3選」(2019年12月19日夕刊)に選出され、2020年には、本展の企画・構成を担った

牧口千夏(京都国立近代美術館 主任研究員)、石関亮(京都服飾文化研究財団 キュレーター)、小形道正(京都服飾文化研究財団 アソシエイト・キュレーター)の3名が、第15回西洋美術振興財団賞・学術賞を授与されるなど、高い評価を得ております。

4回目の開催となるドイツ展は、本展の核となる構成や規模をベースに、ヨーロッパの美術館やコレクターのアート・コレクションを新たに加え、ドイツ版として開催します。世界中で新型コロナウイルス感染症の流行が予断を許しませんが、同館は、入場者の人数制限をしながら開館しています(2021年6月5日現在)。

未曾有のパンデミックによって世界規模で人々の行動やコミュニケーションが大きく制限される中、本展が扱う「着ること」の日常に潜む奥深さ、ルールに囚われやすい面もありながら、日常的に変化を生み出し自由に自己表現しようとする人々の力強さを多くの方々にも再認識いただく機会になればと願っております。ぜひ本展をおひろめいただきたく、心よりお願い申し上げます。

\* 京都国立近代美術館:2019年8月10日~10月14日 熊本市現代美術館:2019年12月8日~2020年2月23日 東京オペラシティ アートギャラリー:2020年7月4日~8月30日

## [ドイツ展概要]

展覧会タイトル：DRESS CODE: DAS SPIEL MIT DER MODE (独)

DRESS CODE: Are You Playing Fashion? (英)

会場：Bundeskunsthalle (ブンデスクンストハレ/ドイツ連邦共和国美術展示館)  
Museumsmeile Bonn, Helmut-Kohl-Allee 4, 53113 Bonn, Germany

会期：開催中～2021年9月12日(日)

毎週月曜休館

\*会場の新型コロナウイルス感染症対策、開催状況、開館時間、関連イベントなどの最新の情報については美術館ホームページ (<https://www.bundeskunsthalle.de/>) にてご確認ください。

主催：ブンデスクンストハレ (ドイツ連邦共和国美術展示館)

京都国立近代美術館

公益財団法人 京都服飾文化研究財団

展示デザイン：元木大輔 (建築家・DDAA/DDAA LAB 代表)

図録：『ドレス・コード?——着る人たちのゲーム』

企画・編集＝牧口千夏 (京都国立近代美術館)

石関亮、小形道正 (京都服飾文化  
研究財団)

編集補助＝池澤茉莉 (熊本市現代美術館)

発行＝京都服飾文化研究財団 2020年

版型＝B5版、カラー322頁

ISBN978-4-9903965-3-4

\*上記の日本語版に、解説冊子 (独語・ブンデスクンストハレ作成) を挟み込み

## [構成]

20世紀初頭の紳士服からストリート・カルチャーを吸収した現代服まで、1万3千点に及ぶKCIコレクションから精選した約90点の衣装作品を中心に、アートや写真、映像なども加えた約300点で構成。「ドレス・コード」になぞらえた12のキーワードを通じて、私たちの装いの実践、着ることの意味、衣服を通じた私たちと社会との繋がりを見つめ直します。

\*以下、各セクションの英語タイトルと出展作家。( )内は京都・熊本・東京展時の日本語セクションタイトル。

### 01. Dress Codes?

ミケランジェロ・ピストレット、Vetements

### 02. Does One Have to Comply with Dress Codes? (組織のルールを守らなければならない?)

Claude Montana、Dior Homme、Helmut Lang、Paul Smith、Thom Browne、ほか

### 03. Those Who Do Not Work Should Have Nothing Wear...? (働かざる者、着るべからず?)

青山悟

Alaïa、Aseedonclöud、Junya Watanabe Comme des Garçons、Levi's、ほか

### 04. Is It Necessary to Disguise Oneself? (生き残りをかけて闘わなければならない?)

Anrealage、Christian Dior、Beautiful People、Uniqlo and JW Anderson、ほか

### 05. How Important Is Authenticity or a Brand? (見極める眼を持たねばならない?)

トム・サックス、ユルゲン・テラー

Fendi、Koché、Louis Vuitton × Supreme、Moschino、Tokio Kumagai、ほか

### 06. Is an Aesthetic Education Necessary for Cultural Edification? (教養は身につけなければならない?)

シンディ・シャーマン

Comme des Garçons、Louis Vuitton ジェフ・クーンズ、Yves Saint Laurent、ほか

### 07. How Consciously Do I Choose My Wardrobe? (服は意志をもって選ばなければならない?)

石内都、森村泰昌

Chanel、Christian Dior、Yohji Yamamoto、ほか

### 08. How Am I Seen/Scrutinised by Others? (他人の眼を気にしなければならない?)

ハンス・エイケルブーム

### 09. Is It Wrong to Listen to Adults? (大人の言うことを聞いてはいけない?)

オリバー・ジーバー、元田敬三

Burberry、Fumito Ganryu、Seditionaries、Undercover、Writtenafterwards、Yuima Nakazato、ほか

### 10. Can Everyone Be Fashionable? (誰もがファッションナブルである?)

オリバー・ジーバー、都築響一

Facetasm、Gucci、Martin Margiela、Noir Kei Ninomiya、Valentino、ほか

### 11. Is Fashion a Game? (ファッションは終わりのないゲームである?)

マームとジプシー

### 12. Give, and It Will Given to You...? (与えよ、さらば与えられん?)

チェルフィッチュ

## 〔関連企画〕

本展関連企画としてブンデスクンストハレが企画した「ファッション・ラボ」は、本展のさまざまなテーマをより深く探求し、多面的な性格をもつファッションを本展のヴィジターに感覚的に体験してもらうことを意図した体験型のイベントです。

そのひとつ「スマート・ミラー」では、いま注目のファッション・ブランドの近作をバーチャル試着することができます。日本から次のブランドが参加しています。

AKIKO AOKI、ANREALAGE、ASEEDONCLOUD、beautiful people、CFCL、FUMITO GANRYU、malamute、THERIACA、written afterwards、YUIMA NAKAZATO

## 〔ブンデスクンストハレについて〕

かつての西ドイツ時代の首都、ボン。ブンデスクンストハレ（ドイツ連邦共和国美術展示館）は旧政府の官公庁街のひとつでもあった、ライン川に臨むボンの郊外、グローナウ地区に所在します。自然史博物館、歴史博物館などが立ち並ぶミュージアムマイル（博物館通り）の一角に、1992年に開館しました。

ブンデスクンストハレはコレクションを持たず、5,600 m<sup>2</sup>（彫刻展示などが行われる屋上庭園を加えると13,600 m<sup>2</sup>）の広大なスペースを生かし、現代アートを含むあらゆる時代のアート、文化史、考古学、科学などをテーマとする展覧会の企画や開催のほか、パフォーマンス、ダンス、音楽といった舞台芸術プログラムを開催する、新しいタイプの美術館です。



ブンデスクンストハレ

©Bildkraftwerk/Bernard Lammel



会場風景 ©京都服飾文化研究財団

## 【お問合せ】

公益財団法人 京都服飾文化研究財団

〒600-8864

京都市下京区七条御所ノ内南町 103 ワコール京都ビル内

telephone: 075 (321)9221

facsimile: 075 (321) 9219

e-mail: [info@kci.or.jp](mailto:info@kci.or.jp)

website: <https://www.kci.or.jp>